

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900140		
法人名	特定非営利活動法人なごみ		
事業所名	グループホームぼらん室根		
所在地	岩手県一関市室根町折壁字兵沢113番地1		
自己評価作成日	平成26年7月1日	評価結果市町村受理日	平成26年10月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0390900140-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成26年8月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して3年半が経過していますが、法人の理念と職員全員で作上げた介護理念「笑顔を大切に温かいホーム」を大切にしながら、利用者様、ご家族様が住み慣れた地域で安心してその方らしく生活していただけるよう、初心を忘れずに努めています。また、利用者様のご要望に応じ、いつでも気軽な散歩や外出を支援しています。地域に根ざしたホームとして近隣の方々とも顔馴染みの関係となってきており、慰問等の来訪やホーム内行事への参加も増えてきています。
代表者は妊娠中、産休、育休等で勤務時間や勤務内容に制限がある職員に対し、様々な条件を受け入れるための職場環境の整備と意欲向上に対する支援に努めているほか、各職員の適性に合った研修会への参加を促し、スキルアップ、キャリアアップの啓発にも力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

豊かな自然環境の中で、地域の方々に受け入れられ、溶け込んで生活しているのは、職員の日頃からの地域に対する働きかけがあつての事と思われる。また、利用者や職員の笑い声がホーム内にあふれて、理念の実践の成果となっている。
職員の育成のために、資格修得等を推奨し、それに向かい取り組んでいる。食事(調理)は、専門の職員により美味しい食事が提供されている。また、それを写真に収め、アルバムを作成している。家族も日頃の食事内容の確認が一目で分かり、家族も安心できるようにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やネームプレートの裏に明示し、常に意識しながら職員間で理念を共有し、実践につなげるよう努力している。毎日の小ミーティングや月例ミーティングの際、皆で唱和することで常に意識するよう心掛けている。	利用者自身が主体的に選択し、役割が持てるよう支援をしている。ネームプレートの裏に理念が書かれていることで、職員は常に理念を意識し、確認ができる。また、年に一度見直しを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の挨拶をはじめ、地域の道路清掃や行事へ積極的に参加している。利用者様とも顔なじみの関係になっており、一緒にお茶を飲んだり立ち話するなどして交流している。	年2回の地域の道路掃除への協力や、収穫祭に参加している。グループホームで、流しそうめん等行事がある時には、地域の方々も参加している。また、利用者の顔なじみの方の訪問がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバン・メイト養成研修を受講した職員が認知症サポーター養成講座を開催しており、要請があればいつでも開催できる状態にある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、利用者様やご家族様、地域の方と意見交換している。会議では、日常生活の様子や行事への参加、ホームでの取り組み等を紹介している。また、前回の議事録を出席者に配布している。	議事録は丁寧に記録され、参加者に配布していることで、どのような質問があり、また、応答があったかが詳しくわかる内容となっている。警察や消防署員からの参加もあり、助言をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当部署へは電話だけでなく、たびたび足を運んでいる。また、一関地区広域行政組合の介護相談員が定期的に訪問し、アドバイスをいただく等の連携がとれる関係作りをしている。	担当部署へ諸手続きや制度等相談に行き、助言を受けている。また、認知症サポーター養成講座の講師の依頼を受け、対応している。大雨の時には、担当部署より安否確認があった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の施錠は行っていない。身体拘束0の手引きやマニュアルを振り返りながら、常に利用者様の立場を考えてケアに取り組んでいる。	日中の施錠やチャイムの使用は行われていない。また、声掛けに配慮し、気になる声掛けがあった場合はその都度ミーティングで話し合いを持っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを振り返りながら、ミーティングや勉強会を通し、身体的虐待だけでなく精神的虐待にはどのようなものがあるのかを再認識し、言葉使いにも注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、さらにミーティングや勉強会で全職員へ周知して、理解を深めている。また、姉妹ホームが利用している「まもりーぶ」制度についても情報収集し、必要になった際に備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書と重要事項説明書等の内容を丁寧に説明し、理解していただけるよう心がけている。また、ご家族様が要望等を言いやすいような雰囲気作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談機関を重要事項説明書に明記し、玄関に意見箱を設置している。また、ご家族様の面会時には利用者様の最近の様子をお伝えすると共に、意向等など何でもお話していただきたいことをお伝えしている。	利用者本人の様子を(家族に)伝え、必要と思われることは前もって説明することで、家族の不安の解消となるよう取り組みを行っている。また、利用者からの要望はその都度、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体ミーティングは運営者を含めた意見交換の場となっている。日常的に職員の意見や提案には耳を傾け反映できるように努めている。	消費税の値上がりにより職員の意見で食材費の見直しが行われている。職員の産休や資格修得等に配慮し、働きやすい職場となるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	子育て中の女性職員の時間短縮や介護等、様々な条件の受け入れ等の話し合いを持つなど職場環境の整備や職員個々の意欲向上に対し、積極的に支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は各職員の適性に合った研修会への参加を促し、キャリア形成、キャリアアップの啓発を継続的に行い、資格試験料は全額補助している。また、研修報告書は月例ミーティングで報告、回覧し他職員が学ぶ機会となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県認知症高齢者グループホーム協会の定例会や市が主催する外部研修等へ参加し、同じ地域の同職種に携わる方々と意見を交わすことで、サービスの質の向上に前向きに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の段階から要望や心配事の把握、ホーム見学やお試し利用の際など丁寧に対応することで、利用開始時に安心してサービスを受けられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	前項同様に、入居申込書に介護上の悩みや困っていること、望まれるケア等を記入していただき、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、十分な聞き取りを行い、利用者様、ご家族様がまず必要な支援を見極めて対応、支援するよう心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、一人ひとりの時間を大切にしながら利用様の好む活動、趣味、できることを活かせるよう努めている。調理や洗濯物干し、たたみ物等、個々の役割が定着している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話、月1回のベストショット写真添付の便りでは、近況報告や行事への参加の呼びかけをしている。ご家族様から受診、外出、外泊支援の協力も頂き、家族との時間を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	兄弟姉妹、親戚や友人への電話や手紙、かかりつけ医や行きつけの美容院等、入居後も馴染みの関係が途切れないよう支援している。	利用者が以前勤めていた職場の人や、同級生が訪ねてきている。また、ホームで年賀ハガキを準備し、関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や利用者様同士の相性を考慮しながら、職員が仲介することで良い間柄を築けるよう努めている。また、皆で楽しめるアクティビティ活動や個人支援を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が入院された場合においても、可能な限り面会し、ご本人の様子を確認するとともにご家族様の不安な気持ちに寄り添い、今後の必要な手続き等の助言をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言葉や表情、行動から思いを汲み取り、利用者様が語ったことをそのまま生活記録へ記入している。ミーティング等を通し一人ひとりの思いを尊重、実現できるよう努めている。	利用者の真意を汲み取るよう、実際の言葉と、その言葉の裏の意味も考慮し、意向に沿い実行できることはすぐに実行している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様、利用していたサービス関係者から入居前の生活歴や趣味、嗜好等の情報収集を丁寧に聞き取り、職員が把握するようにしている。また、入居後も面会の際や会話の中から得た情報は記録に残し活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録や排泄チェック表は時系列で記入しており、一日24時間の流れが把握できるようにしている。また、小ミーティング等で体調の変化や心理状態を把握し、職員間で情報を共有するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、ご家族様からは日常生活の中で定期的にケアの意向を確認している。また、月例ミーティングや担当制によるアセスメントやモニタリングで様々な意見を汲み取り、介護計画に反映させている。	利用者や家族の意向に配慮し、身体機能の維持ができるように歩行器の使用や、手すりを使って職員の見守りや介助による歩行訓練、毎日散歩を希望する利用者の体調に配慮し、担当と話し合いを持ち、適切なプランとなるよう検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録は24時間の生活の流れが記入できるようになっている。また、体調等の大きな変化や共有したい情報は特記にまとめ把握している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族様の状況や思いに合わせてその場面場面で柔軟に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安心して暮らせるよう、地域の方々との関わりを大切にし交流を図っている。防災訓練への呼びかけやボランティアを積極的に受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様のかかりつけ医は契約前と変更せず継続している。また、受診に付き添う際にはバイタル表や上申書を持参し状態を報告している。	以前(利用前)からのかかりつけ医の利用を継続している。また、週1回訪問看護の利用により、利用者の健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康状態を観察、把握し状態変化や気になること等を訪問看護ステーションの看護師へ報告・相談し、健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された際には、可能な限り面会に行き、ご家族様や主治医、担当看護師より情報提供や相談を受け、退院後も安心して生活できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針を説明し、ご本人様、ご家族様の意向を確認するようにしている。入院後も状況変化ごとに話し合いを行なっている。	入居時に看取りの指針の説明が行われている。また、利用者の身体状況により特別養護老人ホーム等への入所についても説明することで、利用者や家族が、安心して暮らしていけるよう支援している。職員は利用者の状況によりその都度、個別に看取りの勉強会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習や緊急時の対応について勉強会を行なっている。緊急時の対応について全職員で確認、共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、隣接する小規模多機能ホームと合同で避難訓練を実施している。ご近所の方には一時避難場所までの誘導をお願いし、協力体制を整えている。また、定期的に非常食の点検も行なっている。	近隣から3~4名の協力を得て、昨秋、薄暗い中で夜間想定避難訓練が行われている。また、大雨の時には同法人内の施設に避難した経験もあり、受け入れた施設と共により経験となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に一人ひとりを尊重し、視線の高さを合わせて傾聴、受容する姿勢を大切にしている。また、声量や、名前をイニシャルで話す等、プライバシーを保つよう配慮している。	ゆっくりと聞き取りやすい声掛けを心がけている。傾聴と受容を大切に、特に排泄誘導等は、小さな声で声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者担当制にしており、コミュニケーションが密に取れるようにしている。入浴時や散歩時等、一対一の時間を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の意向を確認した上で、その日の小ミーティングで話し合い、予定を組み入れる等、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃より整容に気を配っている。起床時や入浴の際、洋服を選んでいただいている。また、女性利用者様は外出時や行事の際にお化粧の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに合った食事形態や好みのものを提供している。利用者様の希望にて山菜を取りに出かけ、下ごしらえをしていただいたり、季節を感じていただけるように努めている。	利用者の希望により、自宅の茗荷(ミョウガ)を取りに出かけ、食事に出したりしている。また、利用者の得意とするところを手伝ってもらい、活躍する場面を大切にした支援が行われている。利用者の嚥下機能に対応した食事形態の配慮が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事、水分量を総合グラフでチェックしている。嚥下が難しい方にはトロミを使用し、一人ひとりの状態に合わせた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声がけ、介助を行なっている。必要があれば義歯の調整等、かかりつけの歯科へ受診して助言をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。排泄間隔を見ながらさりげなく声がけし、トイレ誘導している。	自宅で排泄の失敗のあった利用者の排泄の失敗が減少している。また、布パンツの利用者も多く、排泄パターンの把握により適切な誘導が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用して便周期を把握している。便秘予防として、毎朝の牛乳、食物繊維の多い食材を含んだ食事の提供、散歩や軽体操等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居時には主治医より入浴時の血圧の上限を聞き取り、体調や気分を見ながら意向を確認した上で入浴の声がけをしている。	特に入浴の拒否はない。入浴希望者が多くなければ、利用者の希望への対応は可能である。自分で洗濯機を使用し、洗濯している利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室の室温調整や換気、清潔な寝具の提供などを行いながら、生活のリズムを把握し、状況に合わせた休息や安眠が出来るよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方の変更になった際は、職員全員に周知し副作用等の症状の変化にも気を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内外でそれぞれの能力に応じた軽作業を行う等、役割を持っていただいている。日々の日課も定着しており、趣味として編み物や草取り等楽しみながら取り組まれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、ドライブ等外出する機会を多く設けている。ご本人様の希望に添い、外食や自宅外出等も支援している。また、お花見や芋煮会等、季節を感じていただけるよう大勢での外出も計画し、ご家族様や地域の方にも参加していただいている。	孫の結婚式に参加するため、(足腰が丈夫でいられるように)毎朝、散歩を日課としている利用者もいる。計画外でも、日常的によく室根山にドライブに出かけている。また、親戚や友人宅に出かけた希望があれば、家族と相談し、対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は基本的にホーム管理としているが、外出や買い物の際には自由に使えるよう支援している。また、個別の出納帳や所持金を利用者様と一緒に確認している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時だけでなく、こちらからも利用者様に声をかけている。ご家族様や親戚の方からも定期的に電話や手紙が届いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には利用者様の日常の写真を掲示している。また、季節感を取り入れた装飾を利用者様と一緒に作成し展示し、家庭的な雰囲気を大切にしている。	利用者の皆さんで作成したマンボウの大きな絵は、夏の季節感あふれる作品となっている。また、職員の写真を展示することにより、家族が職員の顔を覚えられ、親しみが増すことと思われる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂テーブルやソファ、椅子の位置を工夫し利用者様が好みの場所で過ごしていただけるよう配慮している。冬季は畳の部屋にこたつを置くことで、くつろぎの場所となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具や家族との写真等持ち込んでいただくよう声をかけている。自作の作品や亡くなった夫君の写真を飾られている方もおられる。	こたつや、テレビ、夫の写真など持ち込みがあり、利用者の個性が感じられる居室となっている。また、利用者自身もモップを掛けたり、掃除を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や浴室、トイレには分かりやすいように表示している。また、浴槽内には滑り止めマットや手すりを取り付け、安全に過ごしていただけるよう配慮している。		